

一般講演・口頭発表 O-09

明石市のアカミミガメ対策について

松浦真也（明石市環境総務課）

Efforts against invasive species, red-eared sliders, in Akashi, Hyogo Prefecture

Shinya MATSUURA (*Environment division, Akashi City*)

明石市ではミシシippアカミミガメ(以下、アカミミガメ)の繁殖を防止する取り組みとして、大量繁殖している池、川で防除調査を実施するとともに、家で飼えなくなったアカミミガメを引き取る「捨てたらアカン！ミドリガメキャンペーン」を実施しました。

防除調査は平成23年度から実施しており、平成23年度は市内の33ヶ所のため池で合計539匹のカメを捕獲し、そのうちアカミミガメは374匹で全体の約69%を占めました。

平成24年度は、前年の調査でアカミミガメの生息割合が高かった5ヶ所のため池で合計1751匹のカメを捕獲し、そのうちアカミミガメは744匹と全体の約42%を占めました。

平成25年度は、谷八木川と流域の5ヶ所のため池で合計3289匹のカメを捕獲し、そのうちアカミミガメは1966匹と全体の約60%を占めました。

いずれの調査においても、捕獲したアカミミガメは須磨水族園の亀楽園に收容し、その他のクサガメ、イシガメ、スッポン等は個体を計測記録後、元の場所に戻しています。

次に「捨てたらアカン！ミドリガメキャンペーン」ですが、小型家電・天ぷら油の拠点回収時に引き取る「カメポスト」と、拠点に持って来られない方を対象に電話で受け付け家まで引き取りに行く「カメダイヤル」の2つの方法で引き取りを行いました。2013年10月に2週間実施したところ、カメポストで56件88匹、カメダイヤルで26件57匹を引き取りました。その他、淡路や京都、遠くは神奈川県からもお問い合わせがありました。引き取ったアカミミガメは亀楽園に收容していただきました。

引き取り時にカメの飼育状況をお聞きますと、ペットショップ等での購入者と野外での捕獲者の割合はほぼ同じであり、平均飼育期間については購入者が約7年に対し、野外での捕獲者は約5年と短い傾向にありました。また、カメを手放す理由としては、世話が大変・大きくなりすぎた・飼育者が高齢などの理由が多く挙げられました。

本市ではアカミミガメを身近で容易に入手できるものの、予想以上に大きく成長し、飼育者の高齢化などの理由で飼育が困難になったため、アカミミガメの寿命と比して短期間で手放してしまうものと考えられます。

今後の取り組み方針としては、防除調査を拡大して実施するとともに、産卵時期での引き取りキャンペーンの実施を検討しています。また、パネルディスカッションやカメの展示などを行う「あかし いきものフォーラム」や、池や川でのアカミミガメの繁殖状況や防除調査の様子を見学する「カメツアー」などの市民向けの啓発事業の実施を検討しています。



捨てたらアカン！ミドリガメキャンペーンの様子